

今月のトピックス

平成17年 夏季期間中の旅客輸送等の動向について

1. JR（平成17年7月22日～平成17年8月18日）

JRは、比較的好天に恵まれ、列車の運行は順調に推移し、対前年同期比2.3%増となった。また、東海道新幹線は愛知万博により105%、山陽及び九州新幹線も107%と好調に推移した。

8月16日正午頃に宮城県沖を震源とする地震が発生し、東北新幹線の一部架線が断線したが、夕刻までに仮復旧した。

JRグループ主要区間における特急・急行列車上下計の断面輸送量（単位：千人）

会社名（区間数）	期間	H16.7.23	H17.7.22	前年比（%）
		～H16.8.19	～H17.8.18	
JR北海道（4）		981	988	101
JR東日本（18）		11,991	12,010	100
JR東海（10）		8,194	8,590	105
JR西日本（11）		5,653	5,841	103
JR四国（3）		371	374	101
JR九州（3）		1,412	1,451	103
計（49）		28,601	29,254	102

※合計値、前年比は四捨五入の関係で合致しない場合がある。

※※対前年同曜日比較

新幹線旅客輸送人員前年比（%）

東海道	山陽	東北	上越
105	107	101	101
長野	山形	秋田	九州
100	99	103	107

2. 国内航空（平成17年7月22日～平成17年8月21日）

国内航空については、比較的好天に恵まれ輸送障害もなく順調に推移し、対前年同期比2.0%増となった。特に中部国際空港においては、愛知万博の効果等により利用実績が好調であった。

方面別では、沖縄方面が特に好調であった。

スカイマークエアラインズ、北海道国際航空及びスカイネットアジア航空では増便及び新規路線の開設により高い伸び率となっている。

なお、ピークは下りが8月12、13日、上りが8月20、21日であった。

(単位:千人)

会 社	期 間		前年比 (%)
	H16.7.22 ~H16.8.21	H17.7.22 ~H17.8.21	
日本航空	4,314	4,253	98.6
全日本空輸	4,304	4,439	103.1
スカイマークエアラインズ	205	242	118.0
北海道国際航空	99	135	135.7
スカイネットアジア航空	81	115	142.9
計	9,002	9,184	102.0

※合計値、前年比は端数整理、四捨五入の関係で合致しない場合がある。

※※日本航空は、日本航空、JALエクスプレス、日本トランスオーシャン航空、琉球エアコミューター、日本エアコミューター、北海道エアシステムの合計値。

※※※全日本空輸は、全日本空輸及びエア北海道の合計値。

3. 国際航空（平成17年7月22日～平成17年8月21日）

国際航空については、全体で対前年同期比0.9%減となった。

方面別では、日本航空は韓国及び米大陸線、全日本空輸はアジア及びホノルル・グアム線が好調であった。また、中国線については両社とも需要の回復が遅れており低い水準に止まった。

出国のピークは7月31日、8月12～16、20～21日、帰国のピークは7月30日、8月15～17、20～21日であった。

(単位:千人)

会 社	期 間		前年比 (%)
	H16.7.22 ~H16.8.21	H17.7.22 ~H17.8.21	
日本航空	1,238	1,225	99.0
日本アジア航空	122	122	100.1
全日本空輸	370	369	99.7
エアニッポン	16	14	87.2
計	1,747	1,731	99.1

※日本発着ベース

※※合計値、前年比は端数整理、四捨五入の関係で合致しない場合がある。

※※※日本航空は、JALウェイズを含む。

※※※※全日本空輸は、エアジャパンを含む。

(参考) 日本航空(JALウェイズを含む。)の日本発方面別輸送実績 (単位:人、%)

路線	ホノルル	米大陸	欧州	蕪アジア	オセアニア	グアム・サイパン	韓国	中国
旅客数	91,914	80,094	71,650	142,584	37,484	43,623	86,074	70,067
前年比	100.1	106.1	96.7	99.4	99.3	91.0	101.9	93.5

(参考) 全日本空輸の日本発方面別輸送実績 (単位:人、%)

路線	米州	欧州	中国	アジア	ホノルル・グアム
旅客数	55,274	45,037	117,381	116,596	35,022
前年比	90.1	89.7	99.3	107.9	107.0

4. 高速道路(平成17年8月10日～平成17年8月18日)

全国の日本道路公団所管の高速道路(日本道路公団が管理する一般有料道路を含む。)の利用台数は、比較的好天に恵まれ、対前年同期比3.5%増となった。8月16日に宮城県沖を震源とする地震が発生したが、早期に点検等を行い通行止めを解除したこともあり、交通への影響は最小限に止まった。

主な高速道路の利用台数をみると、全国的に前年を上回っている。

なお、混雑のピークは、下りは8月13日、上りは8月14、15日であった。

高速道路利用台数(日平均)

(単位:千台)

区 分	期 間		前年比 (%)
	H16.8.10 ～H16.8.18	H17.8.10 ～H17.8.18	
全国高速道路	4,531	4,690	103.5
道央自動車道	117	127	108.1
東北自動車道	308	321	104.0
東名高速道路	446	456	102.1
名神高速道路	262	274	104.6
関越自動車道	186	193	103.7
山陽自動車道	180	191	105.7
九州自動車道	237	248	105.0